

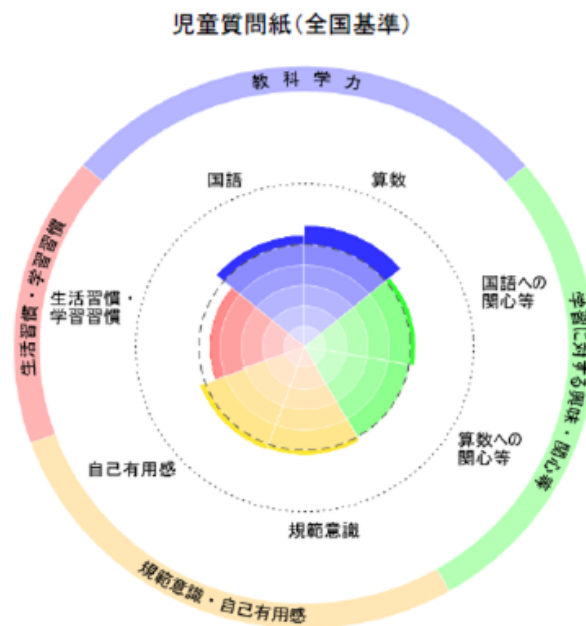
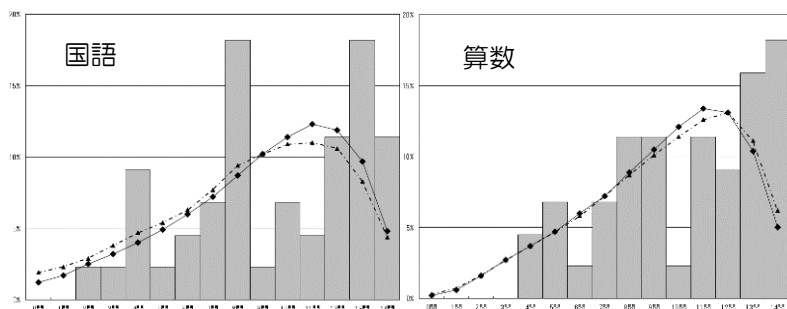
2019 全国学力・学習状況調査（保土ヶ谷小学校の結果）

平成 31 年 4 月に実施された、小学校 6 年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

保土ヶ谷小学校では、調査した国語、算数の 2 教科とも全国及び神奈川県 averages を上回るという結果ができました。

かかわり合いを楽しむ子どもの姿を目指した「重点研授業研究会」を中心に、教師の授業力の向上へ向けた取組を継続して行っております。この取組は子どもの学力向上に有効なことの一つであることが分かります。引き続き取り組んでいくことが大切と考えます。

平均正答率 (%)	国語 (14問)	算数 (14問)
本校	68	73
神奈川県	61	67
全国	63.8	66.6



< 学力調査からの考察 >

【国語】

観点別に見ると、平均値では全ての観点において全国値を上回っている。しかし解答形式別に見ると、記述式における無答者の割合が、「話し手の意図を捉えながら読み、自分の考えをまとめる」設問で 22% と全国値（14%）と比べ、際立って多い。意見文や要約文など日常の中で、作文による発信を重ねていく指導を今後も継続していく必要が感じられる。選択式の設問では、全国値+10%のものもあるため、モデル文を提示していくなどの学習展開から各自が獲得できるようにしていきたい。

学力層としては「3極化」の傾向を示しており、14問の設問のうち、12～14問正答児童が40%、6～8問正答児童が30%、2～4問正答児童が15%を占める。どの層にも魅力のある授業づくりに向けて、今後も組織として取り組んでいきたい。

【算数】

全体正答率としては全国値を上回っている。観点別に見ると、数学的な考え方、技能において全国値を上回り、知識・理解で2%下回るという結果になった。こちらも国語と同様、記述式の設問における無答率が全国より高い結果となっている。以前から普段の学習の中で、各自の考えを記述する時間を確保している。すぐに結果に結びつくものではないと考えられるが、一人ひとりの進歩を見取り、評価を重ねていきたい。

学力層の分布としては、全国の傾向に近いが、14問の設問のうち、13～14問正答が全国値よりかなり多い（本校34%、全国15%）という結果が見られた。

<学習・生活状況調査からの考察>

レーダーチャートの項目の中で「生活習慣・学習習慣」が唯一、全国平均を下回っている。「毎日同じ時刻に寝る・起きる」に対して「当てはまる」と回答した数が顕著に少なく、生活リズムの立て直しが必要な児童がいると考えられる。

その他の項目については、集団としては肯定的な回答割合が高く、目立つものを抽出すると、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか（100%）」、「人が困っているときは、進んで助けていますか（93%）」、「学校に行くのは楽しいと思いますか（91%）」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（91%）」、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（75%）」などがあり、これらは全国平均値より5%以上高いものである。

集団としては「記述」設問への無答者の割合が多いことや一部の生活調査からも分かる通り、自分から主体的に行動することが苦手な傾向にあると考えられる。総合学習などで、自分の行動からポジティブな結果が生まれるような成功体験を少しずつ積み、学習や生活への自主性が育まれるよう支援を重ねていきたい。